

ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム(PDP)

2021 年度入学者用

1. ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムとは

【定義】武蔵大学が実施するロンドン大学パラレル・ディグリー・プログラム (Parallel Degree Programme of University of London and Musashi University、以下 PDP と略す) とは、学生諸君が武蔵大学入学後、ロンドン大学に応募し、入学基準を満たしたうえで、ロンドン大学の科目と武蔵大学の科目を武蔵大学において履修し、武蔵大学の学士(経済)とロンドン大学の BSc Economics and Management (経済経営学士号)を取得するプログラムです。

【メリット】PDP のメリットは以下の 4 点です。

- ① ロンドン大学と武蔵大学の 2 つの学士号を日本にいながらにして、4 年と約 1 か月で取得可能。
- ② 世界最高水準の授業内容を武蔵大学の教員が丁寧に解説。
- ③ 「ゼミの武蔵」のゼミも 4 年間履修できる。
- ④ 卒業後はグローバルに活躍できる。

2. ロンドン大学 Bachelor of Science Programme (BSc)とは (資料最後の Addendum を参照)

【ロンドン大学】ロンドン大学は、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (London School of Economics and Political Science, LSE)やキングス・カレッジ (King's College London, KCL) など国際的に高い評価を受けている複数のカレッジにより構成される大学です。

【Bachelor of Science Programme (BSc)】ロンドン大学のプログラムは、現在、世界 180 か国以上において 5 万人を超える人々の学ぶ、国際的なプログラムです。このプログラムを学んだ人々からは、ノーベル賞受賞者、各国政府の大臣・官僚、作家、ビジネス・リーダーなどが出ています (<https://london.ac.uk/>)。

【International Foundation Programme】ロンドン大学は基礎プログラムとしてインターナショナル・ファウンデーション・プログラム (International Foundation Programme、IFP)を用意しています。IFP は入学条件として IELTS (語学試験)の点数 5.5 以上(各項目 5.0 以上)を設定しています (IELTS 5.5 は英検 2 級と準 1 級の間くらい)。IFP を修了すると、大学の専門課程である Bachelor of Science Programme (BSc)へ進学することができます。IFP は英国の大学に入学するための基礎教育という位置づけです。

【リード・カレッジ】武蔵大学で提供する BSc は上記 LSE がリード・カレッジ (Lead College) となっています。リード・カレッジとは、そのカレッジの教員がシラバスを開発し、教材を準備し、試験の採点を行うなど受講生に対し責任を持つものです。したがって、武蔵大学の提供するパラレル・ディグリー・プログラムは世界最高水準の授業内容です。

3. パラレル・ディグリー・プログラム (PDP)

【スケジュール (図1 参照)】武蔵大学の合格者のうち PDP の履修を希望する学生諸君は、PDP 履修希望届けを提出します。PDP 履修希望届けを提出した学生諸君の中から、事前に行われる英語の試験、数学の試験 (数学試験の実施については、新型コロナウイルス感染拡大の状況によって変更となる可能性があります)、入学試験の成績や高校の成績などにに基づき総合的に PDP 履修者が選考されます (AO 入試 PDP パスポート型で合格した学生、大学入学共通テスト方式 (前期日程 3 科目型) および全学部統一グローバル 2 科目型入試で合格し PDP を確約された学生を除く)。PDP 履修生は、英語を強化した授業を 4 月～5 月 (第 1 クォーター) で履修します。6 月～7 月 (第 2 クォーター) は IELTS 対策プログラムに参加し (2021 年度入学生は新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み国内にて実施予定)、IELTS 5.5 以上を満たすよう頑張ります。

IELTS の基準を満たした PDP 履修生のなかから、9 月初旬の数学のテストおよび第 1 クォーター、第 2 クォーターの学習態度を考慮して、9 月からロンドン大学の International Foundation Programme (IFP) の科目を 4 科目履修できる学生が選ばれます。4 月に PDP 履修生に選ばれなくても、8 月末までに IELTS の基準を満たし、数学のテストでも一定以上の成績を修めれば、9 月から IFP の履修は可能です。

9 月から IFP の勉強を開始し、翌年の 4 月下旬に東京で期末試験があり、これに合格すると 9 月から Bachelor of Science Programme (BSc) に進むことができます。

この BSc の 12 科目を履修し、無事修了するとロンドン大学の学士号が取得できます。通常毎年 4 科目ずつ 3 年間かけて履修します。BSc の科目は毎年 5 月に東京で試験があります。2022 年 9 月に BSc に入学した学生諸君は、2025 年 5 月に最後の試験を受け、8 月には結果が出ます。

この間、武蔵大学の卒業要件を満たすために武蔵大学の授業科目も履修することになりますが、ロンドン大学の科目は武蔵大学でも単位として認めますので、武蔵大学卒業に必要な単位数は他の学生諸君と同じです。「ゼミの武蔵」のゼミも 4 年間履修します。

図 1：ロンドン大学と武蔵大学のパラレル・ディグリー・プログラム(PDP)の概要

	初年次4月	2年次4月	3年次4月	4年次4月	3月
武蔵大学	1年	2年	3年	4年	
	9月	5月	9月	5月	9月
ロンドン大学	IFP	BSc(1年)	BSc(2年)	BSc(3年)	5月

【授業内容】 具体的には下記の科目を開講する予定です。

International Foundation Programme (IFP)

Mathematics and Statistics (数学と統計)

Economics (経済学)

Politics (政治)

Accounting and Finance (会計とファイナンス)

International Relations (国際関係論)

Bachelor of Science Programme (BSc)

Introduction to Economics (経済学入門)

Statistics 1 (half course) (統計学 1) + Mathematics 1 (half course) (数学 1)

Statistics 2 (half course) (統計学 2) + Mathematics 2 (half course) (数学 2)

Principles of Accounting (会計学基礎)

Business and Management in a Global Context (グローバル環境でのビジネスとマネジメント)

Introduction to International Relations (国際関係論入門)

Introduction to Political Science (政治学入門)

Core Management Concepts (マネジメントの中心概念)

Microeconomics (ミクロ経済学)

Macroeconomics (マクロ経済学)

Elements of Econometrics (計量経済学)

Organisation Theory (組織論)

International Economics (国際経済学)

Industrial Economics (産業経済学)

International Political Economy (国際政治経済学)

Human Resource Management (人的資源管理)

Data Analytics (データ分析)

【試験】 武蔵大学が開講する上記科目は 1 月末から 2 月初旬にかけて武蔵大学において期末試験を行い、武蔵大学の教員が評価し、基準を満たしていれば卒業単位として認めます。それとは別に、上記科目で教えた内容は、5 月に東京の British Council で独自に試験が行われ、LSE によって採点が行われます。British Council で実施される試験は、1 科目につき最大 3 度まで受験することが可能です。

【進路】 武蔵大学の卒業が 3 月で、ロンドン大学の卒業試験が 5 月ということで進路について不安があると思いますが、就職については以下の 3 つの可能性があります。

- (a) 武蔵大学を 3 月に卒業し、4 月から就職し、5 月のロンドン大学の試験は会社の休暇をとって受験する。
- (b) 武蔵大学の 9 月卒業制度を利用して、9 月から就職する。
- (c) 武蔵大学の卒業を 1 年遅らせて、翌年の 4 月から就職する。

内定先が理解してくれれば、(a)の場合が最も早く就職することができます。(b)のケースは秋採用をしている企業が外資系などに限られる点に注意が必要です。(c)のケースは最も時間がかかりますが、ロンドン大学の学士号を取得した後、様々な活動ができるメリットがあります。いずれにしても、卒業時のズレは、外国の大学へ4年間留学した場合と同じです。海外の企業に就職する場合や、大学院に進学する場合はこの問題は存在しません。ロンドン大学の成績を高く評価してくれるのは、海外の大学院やグローバルに活躍する企業だと思います。是非、チャレンジしてみてください。

(b) 及び (c) に利用できる卒業延期制度があります。具体的には、卒業延期期間中の前学期は授業料および維持費は免除、後学期は授業料は免除ですが、維持費については半額を納付していただきます。

4. 武蔵大学で学ぶ意味

武蔵大学は「ゼミの武蔵」として、ゼミ教育に特色があります。ゼミとは少人数でのディスカッション重視の授業スタイルです。このゼミ教育で培った丁寧な指導でロンドン大学の教材をわかりやすく解説していきます。武蔵大学の科目の中にはロンドン大学の科目と内容の近い日本語で教える科目がありますので、両方を履修することで、理解がより深まります。

ロンドン大学の BSc は直接入ることが難しいプログラムです。武蔵大学では、英語を強化した授業および海外英語研修を提供し、インターナショナル・ファンデーション・プログラム(IFP)を開講することにより、BSc へ進学することを容易にしています。日本の大学で IFP および BSc を実施するのは武蔵大学が初めてです。

ロンドン大学パラレル・ディグリー・プログラムに入っても、武蔵大学の特色であるゼミは4年間通じて履修できますから、ロンドン大学の授業内容に加え、武蔵大学の特色ある教育も履修することができます。

もし、IELTS 5.5 の基準を満たすことができず、IFP に進めなかった場合でも、武蔵大学の学生として学士号の取得は可能です。その場合でも、武蔵大学の交換留学制度の基準を満たし、イギリス、アメリカ、オーストラリア、オランダなどの協定校へ留学し、卒業することは可能です。

5. ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリーとの違い

最近、外国の大学とのジョイント・ディグリーやダブル・ディグリーなどのプログラムがいろいろな日本の大学で提供されていますが、それらとパラレル・ディグリーの違いは何でしょうか？

ジョイント・ディグリーの場合は、連携する大学間で共同のプログラムを開設し、その課程を修了した際に、複数の大学が共同で単一の学位を提供します。したがって、2つの学位を取得はできません。ダブル・ディグリーの場合は、連携する大学間で共同のプログラムを開設し、学生はそれぞれの大学で学び、学んだ科目の単位をそれぞれの大学が卒業単位として認めあうことで、2つの学位を取得できるようにしたものです。したがって、海外の大学の学位といっても、現地の学生と全てが同じ科目ではありません。

武蔵大学の平行・ディグリーの場合は、国際的に有名なロンドン大学の BSc の内容をそのまま武蔵大学で提供しますので、そこで得られるロンドン大学の学士号は全世界で共通の評価がなされます。

6. 学費及び奨学金

もし、個人でロンドン大学のインターナショナル・ファンデーション・プログラム（IFP）および BSc を受講した場合は、ロンドン大学への学費（期末試験費用含む）が 4 年間で約 120 万円かかります（為替レートなどにより変わる可能性があります）。しかし、武蔵大学では、PDP 履修生のうち成績に応じて奨学金を給付する予定です。

<問い合わせ先>

当平行・ディグリー・プログラムについての質問は経済学部 鈴木（唯）（yui-szk@cc.musashi.ac.jp）までご連絡ください。

Addendum

THE UNIVERSITY OF LONDON INTERNATIONAL PROGRAMMES

The University of London is truly one of the great universities of the world. A federation of 18 world-class Colleges and 10 specialist institutes, its reputation for high academic standards has been built on the outstanding teaching and research of its Colleges since 1836. University of London degrees are recognised internationally by governments, universities, employers and professional bodies as being of the highest academic quality.

Since 1858, University of London degrees have been accessible to students all over the world through the University of London International Programmes, the longest standing flexible and distance learning programmes in the world. Over the years, many exceptional people who have studied with the University of London International Programmes have shaped our world. Former students include seven Nobel Prize winners, leaders of Commonwealth countries, government ministers, renowned authors, academics, judges and business leaders. Today, the University of London International Programmes is truly international in character with over 54,000 students in more than 180 countries.

Academic direction for all of the courses offered through the University of London International Programmes is provided by Colleges of the University. Academics at these Colleges develop the syllabuses, prepare the study materials, and are responsible for the assessment of students. This means that students benefit from the academic rigour and leading-edge research undertaken by the Colleges. It also ensures that the standard of award made to International Programmes students is maintained at the same level as the standard of award made to students studying at one of the Colleges of the University.

In the case of undergraduate courses in Economics, Management, Finance and the Social Sciences (EMFSS), academic direction is provided by the London School of Economics and Political Science (LSE). LSE is a small specialist university with an international intake and a global reach. Its research and teaching span the full breadth of the social sciences, from economics, politics and law to sociology, anthropology, accounting and finance. Founded in 1895 by Beatrice and Sidney Webb, LSE has an outstanding reputation not only for academic excellence, but also for extensive engagement with the worlds of government, policymaking and business.

Upon successful completion of their studies, students are awarded a University of London degree or diploma. Although the standards of these awards are maintained at the same level as the standards of awards made to students studying at LSE, the awards are distinct from degrees or other qualifications awarded by LSE. The certificate that students receive following graduation will state that the student was registered with the University of London and awarded a University of London degree or diploma. It will also state that examinations were conducted by LSE.